



豚サンの詫状

小島 朋子

拝啓 天国のお義母さんへ

お義母さんに手紙を認めるのは何年振りのことでしょうか。時空に見を委ね安隱にお眠りのことと思いますが、時には私達が心配をおかけしたり驚かせたりして、お義母さんの静かな眠りを妨げてしまったこともあったでしょうね。

特にあの時は・・・青天の霹靂・・・天上でもやはりそう表現するのでしょうか。

十六年経った今だから、お義母さんのこと少しだけ愚痴っていいですか？

お義母さんはこの世に本当にたくさん物を残していかれました。几帳面だったお義母さんも晩年の一人暮らしでは物の整理もままならなかったのでしょうか。姉は少し良いダイヤの指輪を持っていたはず」と叔母さんに言われた時、

夥しい物量の中からそれを探し出すのは絶望的だと思いましたが。夫の腰痛と私のダスト鼻炎、軽くなった財布と代償は払いましたが、ようようダイヤの指輪が見つかった時は奇跡だと思いました。叔母さんもとても喜んで 貴女も楽しんでつけてね」

と言ってくれましたが、ガーデニングで



節くれ立った指には先ず入りそうもなかったし、何よりその輝きを見ても私の心がときめくこともありませんでした。

豚に真珠」の諺を思い浮かべ、きっとお義母さんはダイヤの指輪を不憫に思われたことでしょうか。

少し良い物という表現は曖昧です。お義母さんは普通の暮らし向きをされていましたし、私も普通の感覚の間です。少し良い物は文字通り少しなのだろうと、筆筒の引き出しにそのまま入れておきました。かつて入れるものがないからと、愛犬の血統書さえ入れた金庫、その待遇にすべきだったと今は反省しています。以来ダイヤは暗闇の中で輝く機会を一度も与えられず十五年を過ごしました。

そろそろお義母さんの十七回忌を迎えるという頃、ふとダイヤの事を思い出し、このままだと忘れてしまうとさすがの私も気になりました。今のうちに娘に渡しておこう、多分お義母さんもそれを望まれるだろうからと、

要らない」即答でした。

考えてみれば娘も私と同じ豚サン族です。しかも不要なもの持たないシンプルライフ族。更にその時は引越しを控えて物の整理に余念のない時だったのです。

押問答の末、ようやく娘が受け取ってくれてホッとした私は、後には私が好きにして言いのね」と娘が言ったような言わなかったような、少なくとも記憶にはあまりハッキリと残りませんでした。

一か月ほどして あのだイヤね」と娘が電話してきた時に、その言葉が蘇りました。言葉の意味も理解しました。